

科目名	医用画像情報学特論Ⅱ			分野・必選別・単位数	専門科目	選択	2単位
担当教員	◎教授 岡本孝英 准教授 大松将彦 講師 木村千里 講師 林 達也 講師(非) 内山喜代志					授業方法	講義
課程	博士前期	配当年次	2年	配当学期	前期	配当コース	診療放射線コース
授業の概要	CTやMRIの進歩によって、得られた画像データより、病変の情報や付帯情報を解析するために高次画像解析技術が用いられている。本論では、高次画像解析の解析法を学修し、より高度な解析手法を修得することを目的とする。また、放射線部門における画像管理、現実での問題点等の議論を深め、デジタル・ネットワーク化した情報システムに対応できる知識と技術を修得する。						
授業の到達目標	①近年、臨床応用された技術に関しての知識を有する事と、その技術を理論的に説明できる。 ②院内の画像ネットワークに関しての十分な知識を有する。						
授業計画	回数	担当者			行動目標		
	1	岡本 孝英	教 授	本科目の概要、到達目標を説明できる。			
	2	岡本 孝英	教 授	X線CT検査や3.0TのMRI検査のボリュームデータを使用し、高次画像解析の解析法を学修し、より高度な解析手法を修得する。			
	3	岡本 孝英	教 授	X線CT検査や3.0TのMRI検査のボリュームデータを使用し、高次画像解析の解析法を学修し、より高度な解析手法を修得する。			
	4	木村 千里	講 師	X線CT検査や3.0TのMRI検査のボリュームデータを使用し、高次画像解析の解析法を学修し、より高度な解析手法を修得する。			
	5	木村 千里	講 師	X線CT検査や3.0TのMRI検査のボリュームデータを使用し、高次画像解析の解析法を学修し、より高度な解析手法を修得する。			
	6	木村 千里	講 師	X線CT検査や3.0TのMRI検査のボリュームデータを使用し、高次画像解析の解析法を学修し、より高度な解析手法を修得する。			
	7	岡本 孝英	教 授	高次画像解析の手法に関して整理し、プレゼンテーションの作成ができる。			
	8	岡本 孝英	教 授	高次画像解析の手法に関して整理し、プレゼンテーションの作成ができる。			
	9	林 達也	講 師	高度にデジタル化・ネットワーク化する医療情報システムに関して、放射線部門における画像管理、放射線情報システムについて提示された実例および文献を通して、その知識、技術を修得する。			
	10	林 達也	講 師	高度にデジタル化・ネットワーク化する医療情報システムに関して、放射線部門における画像管理、放射線情報システムについて提示された実例および文献を通して、その知識、技術を修得する。			
	11	内山喜代志	講師(非)	高度にデジタル化・ネットワーク化する医療情報システムに関して、放射線部門における画像管理、放射線情報システムについて提示された実例および文献を通して、その知識、技術を修得する。			
	12	内山喜代志	講師(非)	高度にデジタル化・ネットワーク化する医療情報システムに関して、放射線部門における画像管理、放射線情報システムについて提示された実例および文献を通して、その知識、技術を修得する。			
	13	大松 将彦	准教授	放射線部門における画像管理、放射線情報システムの現状に関する課題について調査・検討を加え、その成果としてプレゼンテーションの準備を行う。			
	14	大松 将彦	准教授	上記で準備したプレゼンテーションができる。			
15	岡本 孝英	教 授	作成したプレゼンテーションの発表および議論ができる。				
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。 回次の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、関連する成書や文献等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	該当期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	適宜、指示する。						
参考書	適宜、指示する。						
評価方法	発表50%、レポート50%						
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中で解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						